

会 議 の 名 称	議員定数・報酬等検討 特 別 委 員 会 協 議 会	開催月日・令和 6 年 12 月 26 日 開会時間・ 午前 ・午後 00 時 52 分 閉会時間・ 午前 ・午後 01 時 28 分
出 席 者	河崎 周平 安藤 誠 後藤 徹 佐藤 健 南谷 清司 栗津 明 原 一郎 安井 智子 川柳 雅裕 野口 佳宏 後藤 國弘 堀 隆和 藤川 貴雄 豊島 保夫 南谷 佳寛 花村 隆 山田 紘治 近藤 伸二	
欠 席 者		
オブザーバー		
傍 聴 者		
説明のために 出席した者	藤井議会事務局長 浅井議会総務課長 堀議会総務課課長補佐 森議会総務課主任	
協 議 事 項	・分科会からの中間報告について ・その他	

【開会＝午後 0 時 52 分】

野口委員長

ただいまから議員定数・報酬等検討特別委員会（以下、「特別委員会」という。）を開会いたします。本日の協議事項は「各分科会からの中間報告について」を議題とします。

8月の発足以降、議員定数、議員報酬、政務活動費の3分科会において協議を行ってきました。本日は各分科会から中間報告がありますので、順に報告願います。

まず、議員定数分科会から願います。

豊島定数分科会
座長

概要だけご説明いたしますと、議員定数分科会としての中間報告といたしまして、本分科会では、羽島市議会における議員定数に関する現状の確認、今後の方向性について検討を進めております。

これまでの検討内容を報告いたしますと、議員定数の現状確認について、県内市議会の定数や全国の同規模人口市の定数といった比較表を活用し、羽島市議会の現状を確認いたしました。

また、市が負担している議員一人当たりの報酬および費用に関する資料を基に現状分析を進めております。

議員定数に対する各委員の意見について、各委員からは、市民団体や羽島商工会議所、自治会から寄せられた要望を踏まえ様々な意見が出されました。定数削減を求める声がある一方、現状維持や定数増の可能性についても議論すべきとの意見がありました。

今後の検討については、それぞれの案のメリットデメリットを示していく必要があると認識は一致しております。

そこで、定数分科会といたしましては市民へのアンケートの実施を検討しております。これは経費的なことを考慮すると、他の分科会との調整をしながら、特別委員会全体として決定することが妥当ではないかとの見解です。

視察につきまして、令和7年1月に県内の瑞浪市に行政視察を予定しております。視察先としては定数削減をした自治体、現状維持の自治体などの候補地から、今回は定数削減を実施した自治体を優先して視察することに決定いたしました。他の自治体も分科会の中では挙げたんですが、先方に受けて頂けないということで、現時点では瑞浪市で決定しております。

議員定数に対する考え方について、各委員からは、「現状において住民の意見をしっかりと受け止めて考えていく必要性を感じており、前回の考え方をリセットし、改めて自

	分の考えを構築していきたい」、「定数を削減することで三つある常任委員会は二つにしていきたい」、「定数削減が本当に必要なのかということもしっかりと議論する必要がある」、「市民や団体からの厳しい意見があることから削減すべきである」、「市民の気持ちに沿ってやっていきたい」という意見がありました。 今後は行政視察や他市の審議資料について各委員が調査、分科会で協議し、議員定数の削減や現状維持、定数増とその人数について、メリットデメリットを示して結論を出していきたいと予定しております。
野口委員長	ただいまの報告について何かご意見ございますか。
河崎委員	瑞浪市の視察についてですが、確か瑞浪市は無投票当選という経緯から定数削減に踏み込んだという話もあったと思うので、そこを含めて視察に行った後、また教えて頂ければと思います。
豊島定数分科会 座長	河崎委員のご指摘のとおり、無投票という点を視察の視点に挙げております。
野口委員長	その他、何かございますか。 (意見なし)
野口委員長	次に議員報酬分科会からお願いいたします。
近藤報酬分科会 座長	それでは議員報酬分科会からの中間報告として、現在までの検討状況をご報告いたします。 まず、議員報酬の現状確認ということで県内市議会の報酬等の比較表及び全国の同規模人口の市議会における報酬等の比較表や、市が負担している議員一人当たりの報酬及び費用の資料について、羽島市議会の状況を確認しました。 次に、議員報酬に対する現在の各委員の考え方を聞き、現状のまま、世の中の状況で上げるときは上げ、下げるときは下げるといった様々な意見がありました。 市民へのアンケートについては、他の分科会と調整しながら特別委員会全体として実施するほうが良いという結論になりました。 議員報酬額の算定については、各委員が文献や事例を調べて資料を提出し、説明をしてもらい、中間報告にありま

	すとおりの様々な意見が出されました。 参考意見として、一定の年齢基準を決め、基準年齢より上下の年齢で金額の調整を行い、議員全体の議員報酬総額は変えない方式。物価にスライドして議員報酬を改定する方法。人事院勧告、岐阜県人事委員会勧告及び羽島市職員の給与に関する条例に定める行政職給料表（１）を参考に、社会一般の情勢に適応するよう報酬改定する。扶養手当の支給。消費者物価指数に連動して議員報酬を改定。議員報酬額の決め方には原価方式、比較方式、収益方針がある、などの様々な意見が出されました。今後は報酬算定に関する資料について各委員が更に調査し、分科会で協議し、議員報酬について最終的な結論を得る予定でございます。
野口委員長	ただいまの報告について何かご意見等ございますか。 （意見なし）
野口委員長	最後に政務活動費分科会からお願いをいたします。
山田政務活動費分科会座長	私からは政務活動費分科会の調査状況の概要を報告いたします。政務活動費分科会では、「政務活動費の支給方法について」と、「政務活動費の支給金額について」の２つのテーマを協議しております。その２つのテーマについて、現時点での議論の進捗状況を報告いたします。 まず「政務活動費の支給方法について」は、現在の支給方法である「会派支給」の他に、「個人支給」、「会派と個人支給の選択制」、「会派と個人支給の分割支給」の４つの支給方法を検討いたしました。報告書のとおり、各支給方法のメリット、デメリットを議論し、委員から様々な意見が出ましたが、最終的には支給方法を「個人支給」とすることに全会一致で決定いたしました。 次に「政務活動費の支給金額について」、「他市と比較する方法」と、「必要な経費を積み上げていく積み上げ方式」の２つの観点から検討いたしました。その結果、報告書のとおり、委員から様々な意見が出ましたが、分科会として統一の方針を示すところまでは至っておりませんので、今回の中間報告では、現在分科会の委員から出ている案をすべて報告する形とさせていただきます。 本日の特別委員会においては、分科会が議論した「支給方法」と「支給金額」について、委員の皆様のご意見を頂き、そのご意見を基に、来月から再度分科会で協議したい

	と考えておりますので、積極的なご発言をよろしくお願いいたします。
野口委員長	何かご意見ございますか。
藤川委員	定数と報酬はアンケートの話がありました、委員会としてアンケートをやったらどうだという。政務活動費のほうはそういう話がありましたか。
山田政務活動費 分科会座長	アンケートの話は出ておりません。
議会総務課員	分科会で議論する前に他の二つの分科会において、アンケートは特別委員会でやるという話があったので、政務活動費も特別委員会でやるならもちろんやらなければいけないと思いますので、そこについては議論していません。
南谷清司委員	今回の中間報告は議会のホームページに公開されるのかどうか、公開する権限が議長にあるのか議会総務課長にあるのかどちらか知りませんが。 開かれた議会とか市民の関心の高さから見れば、中間報告という形で議会ホームページに公開すべきだと私は思うんですけど、公開するしない、するならいつごろ公開するのか教えてください。
野口委員長	載せるつもりでした。事務局どうですか。
議会総務課長	来月には載せます。
議会総務課員	政務活動費の件でご意見がないようですが、支給金額について、分科会でまとまった見解を示すことが難しいので、この場でなくてもいいので、例えば同じ会派の分科会の委員にご自身の金額の案を言って頂けるとありがたいです。 1月末に分科会を開催するんですが、議論することがなくなってしまうので、その点だけよろしく願いいたします。
野口委員長	他に何かありますか。 (意見なし)

野口委員長	視察に行ったり、月1回ペースで分科会で議論して頂いておりまして、本当にお忙しいところありがとうございます。今後も各分科会において協議を進めて頂きたいと思いますので、よろしくお願いします。 協議事項が二つございまして、特別委員会として最終結論を出すまでのスケジュールについて、いつ頃までに分科会として結論を出すのか。その後、特別委員会全体としてどのぐらいの期間で最終結論を出すのか。このスケジュールを決めていかないといけないんですが、特別委員会としての結論もあるんですけど、個人的には、たたき台がないといけないので、この分科会の結論は遅くても今年度中には出して頂きたいという思いがございまして。皆様のご意見をお願いします。
豊島委員	委員長がおっしゃったように、やはり一つの案を持たないといけないということで、その方向で賛成です。
藤川委員	年度内に結論が出れば理想だと思います。ただ、調査に行かれる分科会もあるようですし、内容によっては踏み込んだ議論が必要なところもあるんじゃないかと思うので、ひとまず3月が目安になるかもしれませんが、そこで結論が出せなかった場合の延長も踏まえて、余裕を持っておいたほうがいいのではないかと思います。
佐藤委員	分科会の結論を今年度中ということは賛成なんですけれども、結論を出したうえで、それ以降にアンケートを出すという認識でよろしかったでしょうか。アンケート結果を踏まえて今年度中となると、時間がタイトなのかなと思います。
野口委員長	分科会としてある程度の意見を出してもらわないとアンケートの設問も決まらないんじゃないという認識です。アンケートはやるんだろうけど予算も必要ですし。分科会でまず議論して結論を出して、特別委員会で議論して設問を考えていくという思いです。あくまで目途として、いいですか。 (異議なし)
野口委員長	分科会としての結論を出すのは、目途としては今年度末ということでよろしくお願いいたします。

議会総務課長	スケジュールの関係で分科会の方針が決まったんですけど、全体のスケジュールも簡単にご説明しまして、皆様の了解を得られたらと思ってるんですが、議長、説明してもよろしいですか。
野口委員長	お願いします。
議会総務課長	次の市議選が令和9年度4月になりますので、実質2年間余りで決めていくことになります。最終決定が令和9年3月になると選挙のすぐ前ということで、実際に周知期間として、市議会議員に出馬する意向がある人の意思決定に際し、あまりにも短いのは好ましくないということがありますので、できれば半年ぐらい前かなと。 前回、羽島市で議員削減したときには9月議会で決定していますし、岐阜県が議員削減したときは6月議会で決めています。大体どちらも半年前には決定していますので、それを参考にしますと、羽島市でも令和8年度の遅くとも9月までには意思決定したいということになります。 そうすると令和7年度にどこまでやるかなんですが、この後協議しますけれども、アンケートや意見交換会をやるのとすると、予算をとって実施するだけで半年以上かかってしまいますので、この特別委員会ではちょうど1年後の12月から年明けには決定したいところです。 また、令和8年度に報酬を変えることになりますと報酬審議会にかけないといけません。その後、条例改正案を出すためにパブリックコメントを行います。9月定例会までにパブリックコメントと条例の改正案を皆様に審議して頂くのに、3、4ヶ月かかりますので、報酬審議会は年度当初もしくは令和8年当初に行うイメージです。パブリックコメントが6月前後で、令和8年9月定例会に上程して議決という形になります。 今の段階ではこのようなスケジュールで考えてますが、アンケートの実施有無によって早まったりします。これが今の想定で一番時間がかかるスケジュールになります。
野口委員長	来年の12月までに、今から1年かけて特別委員会としてはある程度結論を出さなきゃいけないということですね。
佐藤委員	意見交換会の話がありましたが、意見交換会で市民の皆様から示された意見をベースに、我々としてまた検討する

	ことになれば、それはまたかなり時間を要するおそれがあるかなと思います。 アンケート結果を待って検討するぐらいであればできると思うんですけど、意見交換会の意見を活かせるのか考えたときに、それが仮にできないとすれば、意見交換会をやるべきなのか考えないといけないのかなと思いました。
野口委員長	まずスケジュール案を提示してください。それを見て議論しましょう。
議会総務課長	今日、アンケートや意見交換会をやるかやらないか決まれば、仮にやらなければもう少し前倒しになる可能性もありますので、それも含めてここで決まった内容によってスケジュールを作りまして、タブレットに入れます。
野口委員長	アンケート調査、意見交換会等を行うかどうか。実施する場合、何をいつ頃どのように行うのか。
山田委員	アンケートや意見交換会は、その結果にほとんど準じるんですか。市民意識として、議員の報酬は少なくていい、議員定数も少なくていいと、おそらく市民としたらそういう感覚なんですよ。報酬はもっと上げないといけないという人もいるかも分からないけど、その辺は慎重にやってほしいという気がします。
議会総務課長	アンケートのやり方について補足します。アンケート用紙の印刷と結果の集計作業は事務局がやって、封入封緘作業代を委託する場合、委託代と往復の郵送代がかかるので、そちらを補正予算で手当する方法です。 もう一つは犬山市がやっていた方法で、議員の中で担当を作って、本庁舎1階ロビーで1時間アンケートをとる方法です。さらにコミュニティセンターにアンケートを置いたり、様々なやり方がありますので、予算をかけてやるのかということも議論して頂きたいと思います。 先ほど山田委員が言われた、アンケートをとれば皆さん定数削減の意見なんじゃないかという話で、うろ覚えですが犬山市のアンケートは現状維持が4割程度あって、削減よりも多かった気がします。羽島市がどうなるか分かりませんが、結果は一概には分からないと思います。
山田委員	まず、アンケートや意見交換会を行った他の議会に聞い

	て、数字をとったほうがいいんじゃないですか。 (「3月までに分科会で方針を決めればいい」と呼ぶものあり)
豊島定数分科会 座長	定数分科会ではアンケートをどのようにやっていくかということで、年が明けたら分科会で項目や方法を決めていきたいと思います。
佐藤委員	分科会でアンケートについて話し合うことについてですが、定数も報酬も同時にアンケートを実施したいという見解であったと思います。そうすると結局決められなくて、また特別委員会を開かないといけない気もするんですが、いかがでしょうか。
栗津委員	分科会でまとめて、それをまた全員協議会で協議すると、こういうことでいいんじゃないですか。
議会総務課長	定数分科会は先ほど豊島座長が報告したものが答えになります。分科会としてはやる方向ですけど、あとは特別委員会で決めるという結論が出ていますので、またそれを戻しても大丈夫なのか、懸念はあります。
野口委員長	やる方向でいいですか。やらないといけないんだし。 (異議なし)
野口委員長	方法は考えるということで。スケジュールと一緒にまとめて皆さんにお示しします。 これにて議員定数・報酬等検討特別委員会を閉会いたします。お疲れ様でございました。 【閉会＝午後1時28分】